フィルムになった風景 vol.5

高知県

現役庁舎で10日以上のロケを敢行

「高知県庁」

映画人に愛される美しい石積みの港

「手結内港」

高知県庁：中央に写る本庁舎と右下が議会棟。２棟を結ぶ渡り廊下にセットが組まれた

高知県出身の作家・有川浩さんの同名小説を原作に、2013年5月に全国公開された映画『県庁おもてなし課』は、高知県庁に実在する「おもてなし課」が舞台の作品です。

観光振興を目的に県庁に新設された「おもてなし課」。やる気はあるが空回り気味の若手職員・掛水らは、仕事ぶりを観光特使を依頼した高知出身の作家・吉門から痛烈にダメ出しされ・・・。吉門の助言に従い優秀なアルバイト職員・明神多紀をスタッフに加え、壮大な観光プランを持つ元県庁職員・清遠の協力を得て、走り出したおもてなし課。彼らは本当の「おもてなし」を見つけることができるのか？　掛水と多紀の恋、吉門の秘めた想いは？　高知の美しい自然を背景に、若者の成長と恋愛を爽やかに描きだしています。

高知が舞台の作品ですが、希望の画が撮れなければ別の場所で撮影するのが映画作りの世界。ロケ実現には、クリアしなければいけない宿題もありました。

三宅喜重監督からの主な希望は3つ。「県庁」「日曜市」「雰囲気のいい港町の民宿」で撮影したい、というものでした。理想のロケーションで応えることができるか――。まさに高知県の「おもてなし」力が問われたわけです。

高知城を背に建つ高知県庁は、リアルな「お役所」らしい雰囲気が監督に受けぜひ庁内で撮影を、という話になりました。過去にも撮影実績はあったものの平日を含む長期ロケは初めて。撮影隊にオフィスを明け渡し引っ越す案まで飛び出しました。最終的に本庁舎と議会棟を結ぶ渡り廊下を封鎖することができ、セットを組み撮影しました。現役の県庁舎でここまで大々的に撮影が行われた例は全国的にも無いそうです。

「おもてなし課」セットの中は書類やパンフレットが積み上げられ、その雑然とした雰囲気は「そこまで再現しなくても」と思うほど（笑）。各職員の性格を反映した卓上の小物など、隅々にスタッフの職人気質が発揮されています。高知県では、このセットを2013年9月23日まで無料公開していますので、ぜひ見に来てください。

日曜市は高知市で300年以上続く生活市で、人気の観光スポット。毎日曜、高知市中心部の路上を使って開かれます。劇中では掛水と明神が旬の菜果からチェーンソーまで様々な売り物が並ぶ様を見て回りますが、実際、歩くだけで楽しい空間です。このシーンでは、日曜市を月曜日に一部再現することに。出店者、高知市、警察、エキストラの方々の協力もあり、撮影することができました。普段からの開催ノウハウや、映画『君が躍る、夏』で、同じ通りを封鎖してロケを行った実績も大きかったように思います。

日曜市：約 60 軒の出店者、100 人のエキストラが参加

民宿が建つ港町は、原作では土佐市の宇佐という地区でしたが、町の大きさや海の見え方が監督のイメージと違い、別の場所を探すことになりました。重要な舞台だけに県内の港を一つ一つロケハンし、選ばれたのが香南市夜須町手結の港町でした。石積みが美しい歴史港湾は撮影隊に人気が高く、映画『君が躍る、夏』など幾つかの映画で撮影地になっています。『県庁おもてなし課』では、港に面した民家を改装した民宿「きよとお」のセットのほか、周辺でも多くのシーンが撮影されています。

『県庁おもてなし課』をはじめ、高知を舞台にした作品が続く高知県。作品をきっかけに多くの皆様に高知県に来ていただきたいと思っています。お待ちしています！

手結：港を中心に路地が入り組むノスタルジックな手結の町

（執筆／高知フィルムコミッション　久木田亮）

◆映画『県庁おもてなし課』2013年5月公開
監督：三宅喜重
出演：錦戸亮、堀北真希ほか

◆映画『君が躍る、夏』2010年10月公開
監督：香月秀之
出演：溝端淳平、木南晴夏、五十嵐隼士ほか